

冬を乗り越える5つのテクニック

気温の低い冬はバクテリアの活動も鈍く、分解が遅くなります。
寒い冬を乗り越えて、快適なキエーロライフを送るには・・・

冬テク 1

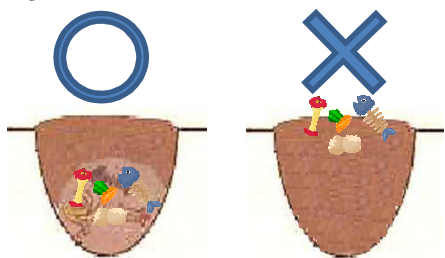
いつもより土をよく混ぜるのが基本

冬は土も冷えてかたくなりがち！分解中の塊をほぐすだけでなく、シャベルを刺すようにして全体的に空気を入れ、ふかふかの土を保つことが大切です。

生ごみの分解がすべて終わった頃を見計らい、一度底のほうから掘り返してみましょ。

空気の入った土はやわらかく作業もラク。分解も早まります。

新たに生ごみを投入したら、生ごみが表面に出ていないかのチェックも忘れずに！



冬テク 2

いつもより長めにためる

野菜くずなどバクテリアの苦手なものはフタ付の容器にいつもより長めにためておくと分解しやすい状態になります。

屋内に置いてても臭いが気になりにくい冬ならではのコツ。

分解しやすい肉や魚は早めに埋めて、野菜類は長めにためてから埋めると良いでしょう。



冬テク 3

使い終わった油が分解を早める



使い終わった食用油はバクテリアの働きを活発にし分解を早めます。

廃食油を容器に取っておいて、野菜くずをたくさん埋めるときなどに一緒に混ぜると効果的です。

冬テク 4

生の野菜くずは小さくor熱を通す

特に時間がかかるのが生の野菜くず。小さくきざむか、調理時に出た下ゆでの残り湯にしばらくつけておく。または、使い終わったフライパンに水を足し、余熱を利用して軽く火を通すのも◎。マメな方にはおすすめの方法です。

余熱を使えば
フライパンの
汚れも落として
一石二鳥



冬テク 5

埋めるものと、燃えるごみに出すものを分ける

「工夫しているのに・・・」消えるのが遅い。そんなときはムリして全量埋めるのではなく、いくらかはごみの収集に出すのも手。分解しにくいものは燃えるごみの収集に出し、魚や肉など分解しやすいものを中心に埋めるなど、キエーロに無理をさせないのも上手に使うコツです。

●●●●●● 生ごみは土の温度を上げる ●●●●●●



生ごみの分解中は土の温度が10～20度ほど高くなりますが、埋めると土の温度は下がってしまいます。少しずつでも継続的に生ごみを入れたほうが土の中の温度が保たれ、順調に分解を続けることができます。